

話題のニュートラック新製品情報・新情報

ごみ収集車…極東開発

都市部での様々なロケーションに対応する 都市型ごみ収集車「スライドバック GB40-520」を発売



都市型ごみ収集車「スライドバック GB40-520」

極東開発工業(株)は、都市部におけるごみ収集形態に適した新機構のごみ収集車「スライドバック GB40-520」を開発し、2017年3月13日に発売した。

新型車は、状況に応じて車両の後方と側方のどちらからでも収集物の積み込みが可能なスライド天蓋など、現場での作業を考慮した各種装備のほか、今までのごみ収集車にないスッキリとした車両デザイン、ボデー容積 4.0 リューベ、最大積載量 2,000kgを確保しながら、全長・全高・全幅を抑えたことにより抜群の機動力を確保させている。狭小路やビル地下をはじめとした都市部での様々なロケーションを想定し、作業性・デザイン性・機動性を徹底的に磨き上げた車両となっている。都市部における不燃物収集や戸別収集などのごみ収集形態にしっかりと対応する、新しいタイプのごみ収集車である。

同車両は、今回の発売に先立ち東京 23 区役所及び区内事業者向けに先行発売を行っており、ユーザーから使い勝手等について高い評価を得ている。

なお、希望小売価格は 365 万円(消費税抜き・シャシ価格除く)で、販売目標台数は 50 台(平成 30 年 3 月期)としている。

■「スライドバック GB40-520」の主な特長

(1) 作業性を高める装備と性能

作業の状況に応じて車両の後方と側方のどちらからでも収集物の積み込みが可能で、走行時の積荷や雨水の飛散を防止するスライド天蓋を装備したほか、ボデーデッキ地上高を軽ダンプ並みの約 800mm (シャシによって異なる)とし、積み込み時の作業性を確保した。

また、排出板押出式による排出方法を採用することで、排出の際に破損しやすい小型家電などの収集物でもつぶれにくく、容易な分別を可能にしている。

(2) スッキリとした新しい車両デザイン

傾斜した投入口カバーや、ボデーサイドの補強部材が目立たないスッキリとしたデザインを実現。また、金属製の天蓋を採用しているため、布製の幌などに比べ、高い耐久性を実現するとともに清掃しやすく、外観品質の維持に貢献。

(3) 狭小路に対応する高い機動性

ボデー容積 4.0、最大積載量 2,000kgを確保しながらも全長・全高・全幅を抑えることで、都市部のごみ収集形態に対応し、狭小路でも抜群の機動性を発揮。

なお、最大積載量および全長・全高・全幅は、架装するシャシによって異なる場合がある。



コンパクトなサイズで狭小路での機動性を発揮する

話題のニュートラック新製品情報・新情報

次期トラック技術…三菱ふそう

次期大型トラックに導入する新技術を発表 「安全性」「経済性」「快適性&操作性」を充実

三菱ふそうトラック・バス(株)(MFTBC)は、本年発売予定の 21 年ぶりのフルモデルチェンジ車である次期大型トラックに導入する新技術を発表した。

MFTBCの新型モデルは、これらの技術により最先端の「安全性」、優れた「経済性」、ドライバーをサポートする「快適性/操作性」を実現させている。

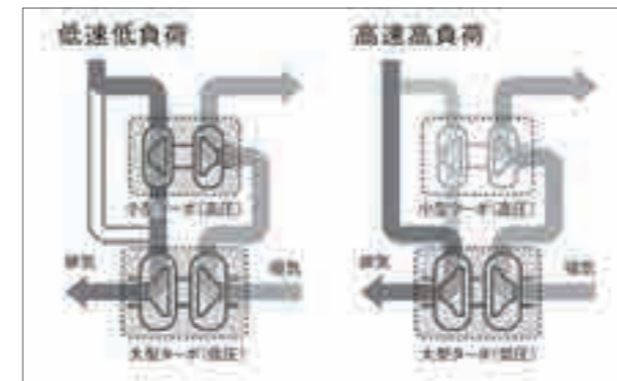
■次期大型トラック向けの新技術

(1) 平成 28 年排出ガス規制に適合した 2 種類の新型エンジンを日本市場向けに開発

①新開発 7.7L 6S10 型エンジン

2 ステージターボの採用により小排気量ながら大型車として十分な高トルク・高出力を実現させた超軽量エンジン。新 BlueTecR (Daimler AG の登録商標) システムと組み合わせることで、低燃費・低排出ガスを両立。

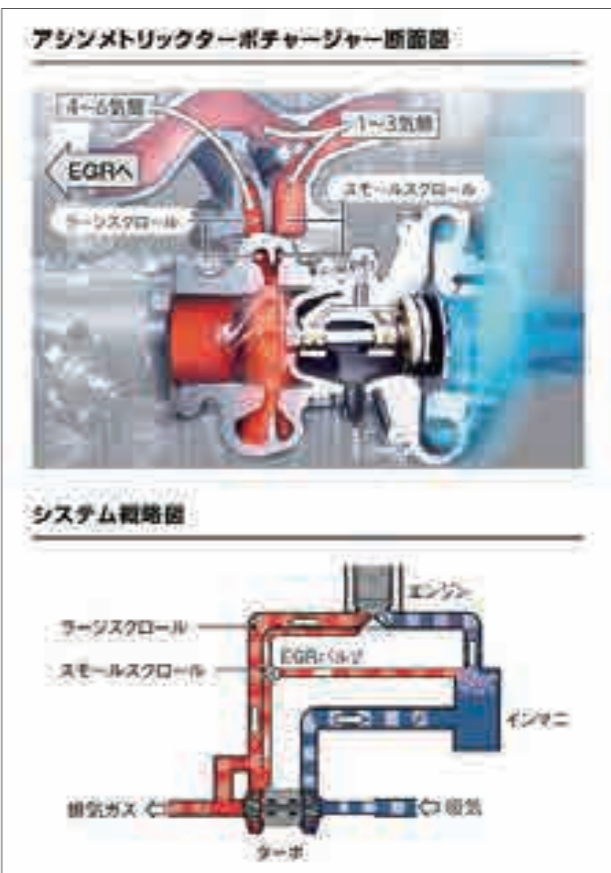
◇先進的燃焼システムを採用し、燃焼を最適化…(a) 燃焼室改善、(b) 2 ステージターボチャージャー、(c) 高圧コモンレールシステム。



2 ステージターボチャージャー作動のメカニズム

◇低排気圧力損失、高 NOx 浄化率触媒の排出ガス後処理装置および緻密な AdBlueR (ドイツ自動車工業会の登録商標) 2 噴射制御が可能なシステムを採用し、低燃費・低排出ガスに貢献…(a) 新 BlueTecR システム(再生制御式 DPF + 尿素 SCR)、(b) 新 AdBlueR 噴射装置、(c) 可変バルブタイミング機構 (DPF 再生時)。

◇アイドリングストップ&スタートシステム



アシンメトリックターボチャージャー断面図とシステム概略図



新開発の超軽量 6S10 型エンジン

【エンジンスペック】

- ・エンジン型式…6S10
- ・排気量…7.7L
- ・バルブ型式…DOHC 24V

- ・定格出力…260kW (354PS)、280kW (380PS)
- ・最高トルク…1,400N・m
- ・仕様…平成 28 年排出ガス規制適合、平成 27 年重量車燃費基準+5%達成

②新開発 10.7L 6R20 型エンジン

アシンメトリックターボチャージャーを最適化し、新 BlueTecR システムを組み合わせることによって、6R10 型エンジンに対して小排気量ながら、更なる低燃費・低排出ガスをハイレベルで両立させた最新型エンジン。



低燃費・低排出ガスを実現した新開発 6R20 型エンジン

◇先進的燃焼システムを採用し、燃焼を最適化…(a) 燃焼室改善、(b) 新アシンメトリックターボチャージャー、(c) 新 EGR バルブ、(d) 第二世代 X-Pulse (増圧式共通レールシステム)。

◇エンジン低フリクション化

◇低排気圧力損失、高 NOX 浄化率触媒の排出ガス後処理装置および緻密な AdBlueR 噴射制御が可能なシステムを採用し、低燃費・低排出ガスに貢献…(a) 新 BlueTecR システム(再生制御式 DPF + 尿素 SCR)、(b) 新 AdBlueR 噴射装置。

◇アイドリングストップ & スタートシステム

【エンジンスペック】

- ・エンジン型式…6R20
- ・排気量…10.7L
- ・バルブ型式…DOHC 24V
- ・定格出力…265kW (360PS)、290kW (394PS)、315kW (428PS)、338kW (460PS)
- ・最高トルク…2,000N・m、2,100N・m、2,200N・m
- ・仕様…平成 28 年排出ガス規制適合、平成 27 年重量車燃費基準+5%達成

(2) 12 段機械式自動トランスミッション「ShiftPilot (シフトパイロット)」を新開発

2 ペダルによるイージードライブとスムーズな自動変速によりドライバーの負担を軽減し、安全を提供。

◇ショック低減によりシフトフィーリングを向上…新型「スーパーグレート」に最適なチューニングを行い、従来モデルに対してより滑らかな変速(シフトフィーリング)を実現。

◇クリープ機能を追加…半クラッチ状態をきめ細かく制御することで、トルコン AT のようなクリープ機能を実現。渋滞時やプラットホーム付け等の微速動作が容易になる。

◇EZGO に、ヒルホルダー機能を追加…EZGO (イージーゴ: 坂道発進補助装置)に加えて、ブレーキペダル解放後、数秒間制動力を保持するヒルホルダー機能を追加。クリープ機能を使った坂道発進の際に役立つ。

◇ロッキングフリーモードを追加…クリープ機能をオフにし、クラッチの断接動作を速めることで、泥濘地からの脱出性を高めるモードを追加。

【ShiftPilot】



新開発の 12 段機械式自動トランスミッション「ShiftPilot」

- ・トランスミッション型式…G211-12 G230-12
- ・ギヤ段数…前進 12 段/後退 2 段
- ・変速比…14.929 / 1.000(直結)、11.672 / 0.779(OD)

(3) AMB plus (エーエムビープラス)

2019 年に義務化される衝突被害軽減ブレーキ第 2 段階規制に適合する AMB (Active Mitigation Brake: 衝突被害軽減ブレーキ)を採用。前方に走行中または停止中の車両があり、衝突の危険を察知すると警告や自動ブレーキによって衝突被害を軽減する。

(4) ABA4 (エービーエーフォー)

ABA4 (Active Brake Assist 4)は AMB plus をより発展させ、停車車両との衝突を回避する(条件によって回避できない場合もある)。さらに歩行者に対しても衝突被害を軽減する。2019 年に義務化される衝突被害軽減ブレーキ第 2 段

階規制に適合。

(5) アクティブ・アテンション・アシスト

従来の MDAS-III (エムダススリー)で培われた運転注意力モニターの技術を強化させた、アクティブ・アテンション・アシストに赤外線カメラシステムを追加。ドライバーモニターカメラが運転者の顔の動きを捉え、運転注意力を監視。左右のわき見やまぶたの動きを感知して、注意力低下をブザーと画面表示で警告。

(6) アクティブ・サイドガード・アシスト (国内初)

左死角に隠れた危険を警告する安全装置。ドライバーにとって死角となる箇所をレーダーによりモニタリングし注意を促すとともに、左側方向指示器の作動時やステアリング操作時に警報音とランプで警告。

(7) プロキシミティー・コントロール・アシスト

車間距離保持機能付オートクルーズに、自動停止、自動発進機能を追加。特に高速道路での渋滞時等に有効で、一時停止と発進を自動的にを行い、疲労を軽減するとともに、追突事故を抑制する。

(8) パワートレイン 3D 予測制御

オートクルーズを使用中に GPS と 3D 地図情報によって道路勾配を予測し、省燃費走行を図るシステム。適切な燃料噴射制御とギヤ段選択や積極的なエコロール作動により、無駄な燃料消費を回避し燃費を向上させる。特に登降坂の多い高速道路で効果を発揮する。



アクティブ・アテンション・アシストの作動の流れ

話題のニュートラック新製品情報・新情報

FCバス…トヨタ自動車

トヨタブランドの燃料電池バスを東京都へ納車 東京都営バスとして3月より運行開始

トヨタ自動車(株)は、トヨタブランドで販売する最初の燃料電池バス(FCバス)を、東京都交通局へ納車した。今回納車した FC バス「トヨタ FC バス」は、2017 年 3 月に納車された 2 台目と合わせ、東京都営バスとして運行されている。

トヨタは、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、東京を中心に 100 台以上の FC バス導入を予定している。今後、市街地を走行する FC バスが増えるにつれて、公共交通手段としての FC バス活用について、一般社会からの理解が高まることを期待している。

トヨタ FC バスは、燃料電池自動車(FCV)「MIRAI」向けに開発したシステム「トヨタフューエルセルシステム(TFCS)」を採



公共交通手段としてのトヨタ FC バス(東京都営バス仕様)

用しており、内燃機関に比べてエネルギー効率が非常に高く、走行時に CO₂や環境負荷物質を排出しない優れた



公共交通手段としてのトヨタFCバス(東京都営バス仕様)

環境性能を実現している。加えて、「ノンステップ基準」に合致しており、高齢者や児童が容易に乗降できるバスとなっている。ちなみに、TFCSとはトヨタFCスタックや高圧水素タンクなどで構成する燃料電池技術と、ハイブリッド技術を融合したシステムで、ノンステップ基準は国土交通省が定める「標準仕様ノンステップバス認定要領」を満たすバリアフリーバスのこと。

また、大容量外部電源供給システムを採用。最高出力7.2kWかつ大容量235kWh(給電器で直流から交流へ変換後の値)の電力供給能力を備えており、災害などの停電時に、学校体育館等の避難所や家電の電源としての利用が可能である。なお、出力と容量は接続する給電器の性能、給電器の変換効率、水素残量、消費電力により給電可能な電力量は異なる。

トヨタFCバスは、経済産業省の「次世代エネルギー・社会システム実証事業」や環境省の「CO₂排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」により、開発と走行実証を行い、国土交通省の「地域交通グリーン化事業」により、今回の導入に至ったもの。それぞれの支援事業としては、①次世代エネルギー・社会システム実証事業…次世代のエネルギー・社会システムの実現に向け高い目標を掲げて先駆的な取組を行う地域を、「次世代エネルギー・社会システム実証地域」として選定し支援するもの、②CO₂排出削減対策強化誘導型

技術開発・実証事業…環境省が、大幅なCO₂排出削減を実現することを目的とし、CO₂排出削減技術の開発・実証を支援するもの、③地域交通グリーン化事業…国土交通省が、自動車運送事業者等に対して、電気自動車バス・タクシー・トラック、燃料電池自動車バス・タクシー及び超小型モビリティの導入を支援するもの、となる。

トヨタグループでは、水素を将来の有力なエネルギーと位置づけ、FCV「MIRAI」をいち早く市販するとともに、FCバス、燃料電池フォークリフト、家庭用の定置式燃料電池などの技術開発・商品展開を推進しており、今後も、「水素社会」の実現に貢献するため、グループ一体となって開発を加速していくとしている。

項目	内容	トヨタFCバス(東京都営バス仕様)
車体	全長/全幅/全高	10,500/2,490/3,240mm
バスボディ	乗車定員(座席+立席+乗降口)	77人(26+50+1)
	全長	10,500mm
エンジン	種類	燃料電池
	出力	7.2kW
燃料タンク	容量	235kWh
	種類	定置式燃料電池
駆動方式	駆動方式	EV
	駆動方式	EV
燃費	燃費	1.1kWh/km
	燃費	1.1kWh/km
価格	価格	約1,000万円
	価格	約1,000万円



日産「NV300」

ランドアイデンティティをはじめとした販売事業や収益を維持しながら、市場や商品を相互補完的に活用していくとしている。

ルノー・日産アライアンスのカルロス・ゴーン会長兼 CEO は、「ルノー・日産アライアンスにおける取り組みと、はじめたばかりの日産と三菱自動車との協業を、アライアンス LCV 事業部門として集約することで、販売台数の拡大とさらなるシナジーの創出が可能になります。この取り組みに加え、お客さまのニーズや各社が持つ市場特性の知識、主要商品をベースに、既存の成熟市場のみならず、新たな高成長市場におけるパフォーマンスを加速することで、各市場でのリーダーシップを拡大していきます」と述べている。

なお、ルノー・日産アライアンスの LCV 事業部門は、アライアンス SVP (シニア・バイス・プレジデント) に就任するアシュワニ・グプタ氏が統括する。

同事業部門は、アライアンス各社間の相互開発および相

互生産の効率を最大化し、コストおよび技術面においてさらなるシナジーを創出することが期待されている。

ルノーと日産は過去数年間にわたって商用バンおよびトラックの相互生産を行っている。その例として、日産の商用バン「NV300」はルノー「トラフィック」のプラットフォームを、日産「NV400」はルノー「マスター」のプラットフォームをベースとした設計となっている。また、ルノーのピックアップトラック「アラスカン」は、日産「ナバラ」のプラットフォームをベースとしている。新設されたルノー・日産アライアンスの LCV 事業部門では、日産「アルマーダ」や「パトロール」など、ボディ・オン・フレーム構造の SUV も事業の対象としている。

◇アシュワニ・グプタ氏略歴

インドのデヘラード出身で、同国のジャワーハルラル・ネルー大学でエンジニア課程を修了後、フランスの INSEAD (インシアード) ビジネススクールに進み学位を取得。2014 年より、ルノーの商用車部門の VP として、同社のグローバル LCV 事業を統括している。

2006 年、ムンバイにあるルノー・インドの購買担当



日産「NV400」



ルノー「トラフィック」

話題のニュートラック新製品情報・新情報 商用車事業…ルノー・日産アライアンス

販売拡大を目的に小型商用車事業部門を新設 相互開発・生産と技術共有化などでシナジーを創出

ルノー・日産アライアンスは 2017 年 3 月 14 日、小型商用車 (LCV) 事業部門を新設し、成長を続ける LCV 市場で同グループのグローバルプレゼンスの拡大を目指すとして発表した。

アライアンスは、ルノーが有する商用バンの専門知識と、日

産が主要市場で培ってきたトラックの製造・販売ノウハウを持つ可能性を最大限に引き出すことで、同グループの小型商用車のグローバル販売台数拡大を目指すことになる。アライアンスのパートナー企業は、アライアンス精神のもとで、各社のバ



ルノーのピックアップトラック「アラスカン」

ネラル・マネージャー (GM)としてルノーに入社。2008年、パリを拠点とするルノー・ニッサンパーチェシングオーガニゼーション(RNPO)にてブレーキシステムを担当するグローバル・サプライヤー・アカウント・マネージャーに就任。2009年、グローバル購買担当のデピュティ・ゼネラル・マネージャー(DGM)としてルノー・日産 B.V.に入社。2011年、日産のダットサンプロジェクト担当グローバル・プログラム・ダイレクターに就任し、インド、ロシア、インドネシア、南アフリカにおけるダットサン車の開発を主導。1992年に民間セクターにおける開発および購買からキャリアをスタートさせた同氏はその後自動車業界で数々の管理職を歴任している。



日産「X-TRAIL」

■ 2016年の販売実績

2016年、ルノーグループ(アフタズ含む)はグローバルで累計 443,931 台の LCV を販売している。最も売れた LCV モデルは「カンゲー」で 118,200 台。続いて「マスター」(91,900 台)、「トラフィック」(81,600 台)となっている。

日産は同年、グローバルで 815,490 台の LCV を販売。モデル別では台数が多い順に「NP300」(196,257 台)、「フロントティア」(102,497 台)、「NV200」(54,118 台)となっている。

三菱自動車は同年、グローバルで 248,000 台の LCV を販売。最量販モデルは「トリトン/L200」で 125,000 台を販売した。

話題のニュートラック新製品情報・新情報

マッドテレインタイヤ…横浜ゴム

SUV・ピックアップトラック向けマッドテレインタイヤを2017年に発売

横浜ゴム(株)は、SUV・ピックアップトラック用タイヤブランド「GEOLANDAR(ジオランダー)」のマッドテレインの新商品「GEOLANDAR M/T G003(ジオランダー・エムティー・ジーゼロゼロサン)」を2017年に世界各国で発売する。なお、日本での発売は2017年8月を予定しており、搭載技術や発売サイズなどの詳細は改めて発表することになっている。

「GEOLANDAR M/T G003」は2004年発売の「GEOLANDAR M/T+」から13年ぶりとなる新商品になる。全世界的に需要が拡大している SUV・ピックアップトラック向けで、特にオフロードユーザー向けの商品となる。開発に当たってはオフロード性能の向上を



GEOLANDAR M/T G003
横浜ゴム、SUV・ピック向けマッドテレインタイヤ

目指すとともに、オンロードでの優れた快適性や静粛性を確保しつつ、耐摩耗性、耐久性の向上を目指した。また、オフロード走行やドレスアップを楽しむカスタム嗜好のユーザーに向けたアグレッシブなトレッドデザインとサイドデザインを実現している。

「GEOLANDAR」は横浜ゴムがグローバルで展開している SUV・ピックアップトラック向けタイヤブランドである。近年、世界中で SUV・ピックアップトラックの人気が高まる中、「GEOLANDAR」シリーズの新商品投入を加速しており、今回の新商品投入することで、よりユーザーから選ばれる高付加価値タイヤの販売拡大を目指している。

「GEOLANDAR」ブランドとしてはすでに2016年8月にオールテレインの新商品「GEOLANDAR A/T G015」、2015年7月に中・大型 SUV 向けのハイウェイテレインタイヤ「GEOLANDAR H/T G056」が発売されている。

その他、都市型クロスオーバー／中・小型 SUV 向けの「GEOLANDAR SUV」を販売しており、今回の新商品の投入により、さらに幅広いユーザーニーズに応えるラインアップとなる。

話題のニュートラック新製品情報・新情報

小型荷役搬送機器…住友ナコ

物流業界への新たな価値提案として小型荷役搬送機器「Pickio」シリーズを発売

住友重機械工業の関係会社である住友ナコフォークリフト(株)(本社：愛知県大府市、加藤成社長)は、物流業界への新たな価値提案として、物流現場のピッキング／搬送作業の新スタンダード「Pickio」シリーズを2017年3月1日に発売した。

■「Pickio」シリーズの主な特長

(1) 簡単操作

ピッキングからトラックへの積込作業までの一連の作業を誰でも簡単に行なうことができる。大容量の AC モーターと電子制御技術の採用でスムーズな走行操作を実現。バイクタイプハンドルにより、自転車やバイクを運転する感覚での操舵。また、最大荷重 1 トン未満フォークリフト運転特別教育のみで運転可能。

(2) 安全性

運転席のついたコンパクト仕様により、旋回操作の取り回しを安全に行うことができ、機器と壁・棚との挟まれなどの事故防止に寄与する。また、腰への負担や長距離の歩行を伴うピッキング作業を減らしたい、脚立を用いての棚2段目へのピッキング作業を回避したいなど、職場の労務安全の改善に活用できる。



小型荷役搬送機器「Pickio」

(3) 長時間稼働

最大 9 時間稼働(標準仕様 201Ah、稼働率 55%、放電率 75%)、一般的な使い方での約 4 年のバッテリー寿命(27.5 時間稼働させたときの充放電サイクル回数に基づく)を実現。長時間稼働により、作業量の多い日も安心して使用できる。

	コンパクトタイプ	コンパクトタイプ	コンパクトタイプ	コンパクトタイプ	コンパクトタイプ
最大積載	400kg	500kg	600kg	800kg	1,000kg
最大寸法	1,100mm	1,100mm	1,100mm	1,100mm	1,100mm
最大積載高	1,100mm	1,100mm	1,100mm	1,100mm	1,100mm
最大積載幅	400mm	400mm	400mm	400mm	400mm
最大積載長さ	1,100mm	1,100mm	1,100mm	1,100mm	1,100mm
最大積載重量	1,400kg	1,400kg	1,400kg	1,400kg	1,400kg

話題のニュートラック新製品情報・新情報

カゴ台車…ユーピーアール

ダイフクプラスモアからカゴ台車レンタル事業を譲受「Logistics4.0」の実現を目指しレンタルアイテムを強化

ユーピーアール(株)(本社：東京都千代田区／酒田義矢社長＝UPR)は、(株)ダイフク傘下の(株)ダイフクプラスモア(本社：東京都港区／井狩彰社長)との間で、ダイフクプラスモアが展開するロールボックスパレット(カゴ台車)のレンタル事業を譲り受ける旨の合意に至り、2017年4月より事業を

開始する。

UPRは従来、パレットやラックを中心にレンタル事業を行ってきたが、今回の事業譲受によりカゴ台車まで取扱資材を広げることになり、ユーザーにより幅広いサービスの提供ができる体制を整えたことになる。さらに、労働生産性向上に

つながると注目される「アシストスーツ」や最新鋭の RFID システム「スマートパレット」も積極的に展開することで、物流分野・業界の労働力不足を解消する方策のひとつにしたいとしている。

これにより、UPR の「Logistics4.0」実現を目指すことになる。また、今後カゴ台車には、「スマートパレット」で開発した RFID タグを適用していく予定となっている。



UPR が目指す「Logistics4.0」

話題のニュートラック新製品情報・新情報

東アフリカ事業…いすゞ

いすゞ商用車の生産販売事業拡充を目的に GMEA 株式取得で東アフリカ事業の基盤強化

いすゞ自動車(株)とゼネラルモーターズ・カンパニー (GM) は、経済成長の続く東アフリカ市場において、いすゞが商用車の生産販売事業の拡充を図る目的で GM イーストアフリカ (GMEA) に出資することで合意した。

GMEA は、1975 年の設立以来 40 年間にわたり、ケニア共和国ナイロビでいすゞブランドの小・中型のトラック・バスの生産販売、いすゞピックアップトラック・シボレー乗用車の輸入販売を行っている。2012 年以降 5 年連続でマーケットリーダーとしてケニアの商用車市場を牽引している。

いすゞは、GM が保有する GMEA の全株式 57.7% を取得し、同社を連結子会社化した。また、これに伴い 2017 年 4 月より、GMEA は、「ISUZU EAST AFRICA (仮)」に社名を変更する予定となっている。

いすゞは、今回の出資により、社員の研修・育成やいすゞの技術支援を通して更なる品質改善、車両の拡販を目指す。また、東アフリカでのアフターセールス体制の基盤強化に努めるとしている。

■新会社の概要

- ◇会社名：いすゞイーストアフリカ (ISUZU EAST AFRICA LIMITED)
- ◇所在地：ケニア共和国 ナイロビ
- ◇代表者：リタ・カバシェ (社長)
- ◇主な事業株主：いすゞ：57.7%、ICDC：20%、Centum Investments：17.8%、伊藤忠商事：4.5%
- ◇事業内容：いすゞトラック・バスの CKD 生産販売、いすゞピックアップトラックの輸入販売、部品供給、サービス提供
- ◇資本金：KES 31mil (約 3 千万円)



ナイロビ・ミンガン州の GM 本社



いすゞピックアップトラック

話題のニュートラック新製品情報・新情報

大口納入…三菱ふそう

ウガンダでのインフラプロジェクト向けに ダンプなどの建設車両を大口納入

三菱ふそうトラック・バス(株)(MFTBC)は、ウガンダの土木事業・運輸省のインフラプロジェクト向けに、日本のビジネス・パートナーに対して FUSO 車両を 502 台納入する。

ウガンダは GDP 成長率 5% と、アフリカで最も急成長を遂げている国のひとつ。農業国である同国では、インフラ計画が相次ぎ策定されている。特に道路網についてはすでに約 13 万 km まで拡張されている。ウガンダ政府は今回、農作物の効率的な輸送を目的として、全国 112 地区の道路網を整備・伸張する。同国では、GDP に占める農産物産業の割合は約 30% となっており、道路整備が発展の要となる。三菱ふそうは同プロジェクト向けに、地域のインフラ建設のニーズを満たす車両を提供することになる。

FUSO 車両を含む輸出売買契約は住友商事(株)とウガンダの土木事業・運輸省との間で 2015 年 9 月に締結された。FUSO は極東開発工業(株)などの架装メーカーにシャシを提供し、架装メーカーが小型トラック「キャンター」(移動作業車用)、中型トラック「ファイター」(ダンプ、アスファルト配給車、散水車およびクレーン付貨物車)、大型トラック「スーパーグレー



中型トラック「ファイター」のダンプ (極東開発)

ト」(ローダーおよびトレーラー)の架装を行うことになっている。

建設車両の点検・整備は、FUSO の認定卸売販売会社である Spear Motors Ltd. が担当する。同社は 2013 年以降、FUSO 車両の販売およびサービスを行っている。

MFTBC は、急成長する新興国の発展に貢献するため、インフラプロジェクト向けに車両を大口納入するなどの活動を今後、拡大していくとしている。

話題のニュートラック新製品情報・新情報

バーレーンで新型車…三菱ふそう

中東バーレーンで新型車両を発売 砂漠地帯の厳しい走行条件に対応した設計を採用

三菱ふそうトラック・バス(株)(MFTBC)は、バーレーンで FUSO の新型車両「FA」「FI」「FJ」「FZ」を発売する。

バーレーンはペルシャ湾地域に位置する小さな島国で、33 の島で構成され、人口は約 140 万人。国名はアラビア語で「2 つの海」を意味する。バーレーンの国土は 90% 以上が砂漠地帯で占められているため、トラックの走行には過酷な環境となる。主要産業は産油で、水道・ガスなどの公共設備の更新をはじめとするインフラや道路網の整備も継続的に行われている。さらに、バーレーンの主要港であるミナサルマン港からは貨物



バーレーンでの FUSO トラック発表会の様子

輸送が活発に行われている。これらのことから、バーレーンでは過酷な走行環境にも耐えられる商用車が求められている。FUSO の新しい中・大型トラックは堅牢で、バーレーンのユーザーの高い要望に応えられるよう設計されたもの。GDP 成長率 3.2%の同国の商用車の総需要は約 1,000 台と推計されている(MFTBC 調べ)。

FUSO の新型車両は、輸入・卸売販売会社で商用車では FUSO ブランドを専売する Zayani Motors を通じて販売される。同社はバーレーン国内に 5 つのカスタマーセンターを有している。MFTBC は、1994 年から Zayani Motors と提携し、小型トラック「キャンター」、小型バス「ローザ」を販売している。FUSO は 10 年にわたってバーレーンの小型トラック分野でシェア約 40%を占め、首位の座を維持し続けている。2016 年は約 400 台を販売している。

タイムラー商用車部門の中東地域で FUSO ブランドを統括するセバスチャン・ヘンリー氏は、2月21日にバーレーン

の首都マナーマで開催された発売イベントで、「FUSO はバーレーン市場において長い歴史を有します。私たちのビジネスパートナーである Zayani Motors は、バーレーンの自動車業界で高い評価を獲得してきました。私たちは 2015 年 10 月に MENA (中東・北アフリカ)地域のリージョナル・センターをドバイに開設し、同センターを通じてバーレーンとより緊密に業務を行っています。これにより、私たちは、同市場の動向の把握をさらに深め、市場の要求に迅速に対応することができるようになりました」と述べた。

Zayani Motors のゼネラル・マネージャー Majid K. Al Zayani 氏は、「新しい中・大型トラックの発売により、Zayani Motors、FUSO、アル=ザヤニ家との長年に及ぶ歴史に新たな 1 ページを加えました。私たちは、今回投入する新型車両がバーレーン市場でトップを獲得すること、そして、その進化を遂げた性能がお客様の予想を超えるものであることを確信しています」と抱負を語った。

での実証実験や、トランスデブ社のオンデマンド配車や運行管理、経路選択のためのプラットフォームなどの検証を行う。

トランスデブ社のチーフ・パフォーマンス・オフィサーであるヤン・ルリッシュ氏は、「未来のモビリティはパーソナルなものになるとともに、自動運転化、コネクテッド化、電動化していくでしょう。当社は、公共交通およびオンデマンドシェアサービスの世界的リーダーとして、クライアントに最高のソリューションを提案しています。ルノー・日産アライアンスとのパートナーシップは、当社の革新力を高めるとともに、互いの強みを融合することで、市場投入までの時間を短縮します」と語っている。

ルノー・日産アライアンスは、先進のコネクテッド・カー技術およびモビリティサービスの開発を加速すべく、様々なパー

トナーシップを結んでいる。ユーザーの経験をより良いものとするための単一グローバルプラットフォーム開発を目的としたマイクロソフト社との提携や、モビリティサービスでの無人運転技術活用を検証を含んだ株式会社ディー・エヌ・エー (DeNA)との実証実験はその一例である。

トランスデブ社について

フランス預金供託金庫の 70%出資子会社であり、ヴェオリア社が 30%を出資している。トランスデブ社は公共交通機関のコンサルティング企業としてプロジェクトの準備段階から管理支援、公共交通ネットワークの日常運行まであらゆるサポートを行っている。19 か国に 83,000 名の従業員を有する同グループは、43,000 台の車両と路面電車 22 路線を運行管理し、2015 年の総売上高は 66 億ユーロになる。

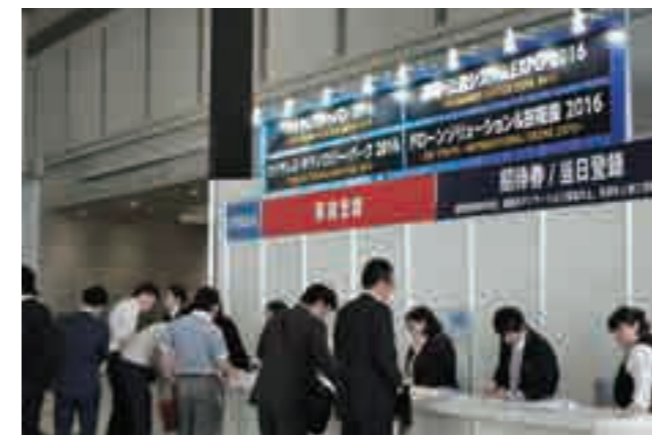
話題のニュートラック新製品情報・新情報

展示会…運輸・交通システム EXPO 実行委員会

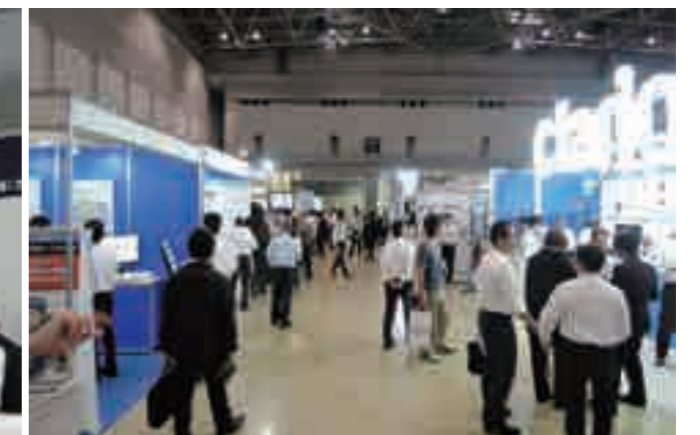
事故防止や効率運行をテーマとする「運輸・交通システム EXPO 2017」が 5 月に開催

運輸・交通業界で重要なテーマであるの、安全運転、事故防止、省エネ運行、そしてドライバーの健康管理にスポットを当てた『運輸・交通システム EXPO 2017』が 2017 年 5 月 24 日(水)から 26 日(金)の 3 日間、東京ビッグサイトで開催される。主催は運輸・交通システム EXPO 実行委員会、日本イージェイケイ(株)とパラボックス(株)が運営事務局を担当する。協力は(公社)全日本トラック協会、後援として(公社)日本バス協会、(一社)日本 3PL 協会、(公社)日本包装技術協会、(一社)日本パレット協会、日本マテリアル・ハンドリング(MH)協会、(一社)日本物流システム機器協会、(一社)新日本スーパーマーケット協会、(一社)情報通信技術委員会、(一社)日本トラックドライバー育成機構、他を予定している。

同展には、安全運転、事故防止、省エネ運行、ドライバー健康管理に対する各種課題を解決するためのシステムや製品、技術が一堂に集まる。安全運行を確保しつつ効率的な運行をアシストする機器やシステム、ドライバーをサポートする製品など、今もっとも注目されているアイテムが多数展示される。具体的には、①安全運転・事故防止…安全運転支援システム、安全運行を支援する製品やソリューション、②ドライバーの健康管理…ドライバーの健康管理や体調管理を行うための各種製品やソリューション、③業務効率改善支援…コスト低減ニーズに応える運行管理システムや IP 無線などの運行管理システム、④省エネ機器&メンテナンス…省エネ運行に貢献するシステムと、タイヤなど環境に配慮した省エネ関連



安全運転、事故防止、省エネ運行、ドライバーの健康管理にスポットを当てた「運輸・交通システム EXPO」(写真は 2016 年開催展)



話題のニュートラック新製品情報・新情報

自動運転…ルノー・日産

未来の公共交通とオンデマンド型交通に対応した無人運転車のフリートシステムの共同開発で合意

ルノー・日産アライアンスとヨーロッパ最大の公共交通機関を手がけるトランスデブ(Transdev)社は 2017 年 2 月 27 日、無人運転車を活用した公共交通およびオンデマンド型交通(利用者の要望に応じて提供される交通システム)向けのモビリティサービスを共同開発することで合意した。

両社は、利用者が無人運転車の乗車予約をしたり、オペレーターによる自動運転車両の監視および運行管理を可能にする包括的な交通システムの開発を行うことになる。

ルノー・日産アライアンスでコネクテッド・カーおよびモビリティサービスを担当するオギ・レドジク SVP (シニア・バイス・プレジデント)は、「モビリティサービスが進化を続ける中、我々はお客さまのニーズに合った革新的なソリューションを提供する大きなチャンスを迎えています。これは、ゼロ・エミッション、ゼロ・フェイタリティ社会の実現を目指す当社のビジョンに沿った取り組みでもあります。今回の提携により、電気自動車、自動運転車およびコネクテッド技術におけるリーダーであるルノー・日産アライアンスの知見を、世界最大手のモビリティ運

行会社の 1 社であるトランスデブ社と共有することが可能になります。我々は既存の公共交通システムをより良いものにするべく、先進的な無人モビリティシステムを共同で開発します」と述べている。

両社は、第一段階として、欧州で最も売れている電気自動車であるルノー「ZOE (ゾエ)」を使ったパリ・サクレー地区



欧州で最も売れている電気自動車のルノー「ZOE」

アイテムや車体のメンテナンス製品やサービス、となる。

また会期中には、運輸・交通業界において深刻な課題となっている、人材不足を解決するための専門セミナーや出展社によるプレゼンテーションも無料で実施されることになっている。

主な場対象者としては、①運送事業者、②バス、タクシー事業者、③企業の物流管理・配送部門、④3PL 関連部門、⑤荷主、⑥自動車メーカー、ディーラー、⑦自動車機器、部品メーカー、⑧システムインテグレーター、などとなる。

なお同展は、来場者数約 45,000 人の無線通信展示会「ワイヤレスジャパン 2017」、「ワイヤレス・テクノロジー・

パーク 2017」と同時開催される。同時開催展に来場する通信事業者、通信機器ベンダー、システムインテグレーター等の来場者を共有することになる。さらに、総務省協力による ITS、自動安全走行、テレマティクスに関する専門エリア「ITS パビリオン」も設置される。

また、「運輸・交通システム EXPO」の開催コンセプトをベースとする『運輸・交通システム EXPO in 大阪 2017』が 2017 年 6 月 8 日(休)から 9 日(金)の 3 日間、インテックス大阪で「サービスロボット開発技術展 2017」と同時に開催される。



安全運転、事故防止、省エネ運行、ドライバーの健康管理にスポットを当てた「運輸・交通システム EXPO」(写真は 2016 年開催展)

話題のニュートラック新製品情報・新情報

コンセプトモデル…TOYOTA

近未来の都市型モビリティ「TOYOTA i-TRIL」を ジュネーブモーターショーで初披露

TOYOTA は、スイス・ジュネーブで 2017 年 3 月 7 日～19 日に開催された第 87 回ジュネーブ国際モーターショー (Le 87e Salon international de l'automobile Geneve) で、近未来の都市型モビリティライフを提案するコンセプトモデル「TOYOTA i-TRIL」を世界初披露した。ちなみに、コンセプトモデルの名称の「i」は私、TRIL は TRIPLE (3 人) と Lean (リーンテクノロジー) を合わせた造語である。

TOYOTA i-TRIL は、「走る楽しさを追求する近未来の都市型モビリティ」をテーマに掲げ、新しい乗り味と使い勝手のよさによる楽しさを提供するとともに、都市生活者のニーズに応える小型 EV コンセプトである。

同コンセプトモデルは、コンパクトなボディサイズにより車体の取り回しが良く、左右前輪が上下して車体の傾きを最適かつ自動的に制御するアクティブリーニング機構を採用したことで、快適性・安定性を両立し、意のままに操れる一体感のある爽

やかな走りが実感できる。なお、アクティブリーニング機構は、ドライバー自身が車両のバランスを保つ必要がなく、安定した走行を可能にする技術である。

また、クルマの中心にドライバーを配置する「1 + 2 レイアウト」によって、3 人乗車が可能なパッケージとし、ドライバーと同乗者の絶妙な距離感を実現することで、心地よい車内空間を創出。さらに、ドアがフロアの一部を構成しており、開くとフロアのステップ部分が空くため、楽な乗降を可能としている。

TOYOTA i-TRIL のデザインは、フランス・ニースに拠点を置く ED2 (Toyota Europe Design Development / ED スクエア) が担当。将来、欧州では小・中規模都市の発展が見込まれており、小さなコミュニティにおける 30-50 代の子育て世代のライフスタイルを想定し、便利で快適な新ジャンルの都市におけるモビリティの進化を具現化したものである。



ジュネーブモーターショーで初披露された近未来の都市型モビリティ「TOYOTA i-TRIL」



＜ご参考＞ TOYOTA i-TRIL 主要諸元 (社内認定値)	
全長 (mm) / 全幅 (mm) / 全高 (mm)	2,830 / 1,500 / 1,460
ホイールベース (mm)	2,060
乗員定員 (人)	3
空車重量 (kg)	600
パワートレイン	電動モーター
1 回充電走行距離 (km)	200 以上